

平成 24 年度版『中学生の国語』

単元「伝統的な言語文化」
テスト問題例集



三省堂

はじめに

教育基本法や中教審答申に伝統文化の尊重が明記され、国語科では「伝統的な言語文化に関する事項」が学習指導要領に新設されました。

これを受け、平成24年度版『中学生の国語』では、「伝統的な言語文化に関する事項」の教材を、取り立てた教材と、各領域の指導と関連させた教材との二つの柱で構成し、学習のさらなる充実を図りました。

一つめの柱である「取り立てた教材」では、学年冒頭の単元を「伝統的な言語文化」とし、優れた古典の音読・暗唱から一年間の学習を始めます。古典のリズムを捉えることで、「声の文化」として受け継がれてきた日本語の伝統を大切にしました。

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」では、小学校での国語学習との接続を考え、既習の古典教材も取り上げ、子どもたち

が安心して学べるように配慮しています。

二年では、朗読によってリズムやイメージを大切にしながらもの見方や考え方を捉え、さらに三年では、意味（内容）の把握にも重点を置き、「書く」ことで内容理解を深めることができるようにしました。

二つめの柱には「領域と関連させた古典学習」を位置づけ、古典作品を味わうなかで、領域学習と関連させながら、生活の中に古典を生かすということに主眼を置きました。引用したり、自分で考えて表現したりする活動を通して、古典が決して特別なものではなく、自分たちにとってより身近なものとなるように教材化しています。

今回は、一つめの柱である学年冒頭の単元「伝統的な言語文化」のテスト問題例をご紹介します。学年ごとに、上段には教科書本文を、下段にはテスト問題例を掲載しました。全国の先生方のこれからの授業にお役立ていただければ幸いです。

目次

●考えてみよう ●新しい單元扉……………6

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(1) —和歌・俳句—……………8

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(2) —随筆—……………10

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(3) —物語—……………12

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(4) —漢詩・漢文—……………14

一年「竹取物語」(1)……………16

一年「竹取物語」(2)……………18

二年「枕草子・徒然草」

22

二年「漢詩の世界」

24

三年「おくのほそ道」(1)

26

三年「おくのほそ道」(2)

28

三年「中国の古典の言葉」

30



平成24年度版『中学生の国語』では、各単元に小さな問いかけを提示しました。楽しみながら取り組むこと、まずは自分で考えてみることから学習をスタートしましょう。

ここでは、単元「伝統的な言語文化」の単元扉をご紹介します。

1年

伝統的な言語文化 言語文化にふれる



どんな人が、どんな場所で使っていたのでしょうか？

- 声に出して、
- さまざまな作品を読もう
- 竹取物語
- 漢字の字体・画数・筆順
- 漢字を使いこなそう①

百人一首カルタ

どんな人が、
どんな場所で使っていたのでしょうか？



お正月に使ったことがあるものに似ているわ。



ずいぶん昔の時代の服装だね。これって……。



一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(1)

和歌

① 春過ぎて夏来たるらし 白たへの衣干したり 天の香具山

1 2 3 4 5

持統天皇

② 人はいさ心も知らず ふるさとは花ぞ昔の香にほひける

1 2 3 4 5

紀貫之

③ 世の中に絶えて□のなかりせば 春の心はのどけからまし

1 2 3 4 5

在原業平

問1 次の中の□に最も適切な数字や語を入れなさい。

詩を□と言います。□の三十一音で表現される定型の

問2 ①から③について、意味の切れ目として最もよい箇所を選び、それぞれ番号で答えなさい。

- ① 「春過ぎて…」 () ()
- ② 「人はいさ…」 () ()
- ③ 「世の中に…」 () ()

問3 ①の歌の□線「衣干したり」とは、どこに干してあるのですか。

問4 ②の歌では何と何を比べて歌っていますか。

問5 ③の歌「世の中に…」について、□にあてはまる言葉として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 梅
- イ 桜
- ウ 椿
- エ 朝顔

俳句

④ 行く春や 鳥啼き魚の目はなみだ

松尾芭蕉

⑤ 春の海 ひねもすのたりのたりかな

与謝蕪村

⑥ めでたさも ちう位なり おらが春

小林一茶

⑦ 若鮎の 二手になりて 上りけり

正岡子規

問6 次の中の□に最も適切な数字や語を入れなさい。

俳句は□・□・□の十七音でできた短い詩で、□を一つ入れるという約束があります。

問7 ④の□線「鳥啼き魚の 目はなみだ」とあるのは、どうしてですか。

()

問8 ⑤の□線の意味として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア おだやか イ 満ち潮 ウ ゆつくり エ 一日中

問9 ⑥の□線の読みを、現代仮名遣いを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

()

問10 ⑥の句の季節は何ですか。

()

問11 ⑦の句の季節は何ですか。

()

問12 ⑦の句の□線「上りけり」とは、何がどこを上るのですか。

()が()を上げる。

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(2)

随筆

①

□はあけぼの。

A

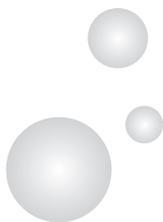
やうやう白くなりゆく山ぎは、

B

少しあかりて、

C

紫むらさきだちたる雲の
細くたなびきたる。



問1 ①の作品名と作者名を書きなさい。
作品名 () 作者名 ()

問2 ①の□に入る季節として、最もよいものを漢字で書きなさい。
()

問3 ①の 線Aの部分の読みを、現代仮名遣いを用いて、すべてひらがなで書きなさい。
()

問4 ①の 線Bの部分の意味として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 光りを増して イ 赤くなって ウ 風が吹いて
()

問5 ①の 線Cの部分の後に補う言葉(現代語)として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 〳〵のがふさわしい イ 〳〵のは趣がある
ウ 〳〵のは殺風景だ エ 〳〵のがみっともない
()

②

D つれづれなるままに、

日暮らし、□に向かひて、

E 心にうつりゆく よしなしごとを、

F そこはかとなく 書きつくれば、

G あやしうこそ ものぐるほしけれ。

(兼好法師『徒然草』より)



問6 ②の 線Dの意味として、最もよいものを次の中から選
び、記号で答えなさい。

- ア しみじみ、とても寂しいので
- イ つくづくいやで
- ウ することもなく、たいくつで
- エ どうしようもなく思いに沈むので

問7 ②の□に入る言葉として、最もよいものを次の中から選び、
記号で答えなさい。

- ア 硯(すずり)
- イ 墨(すみ)
- ウ 筆
- エ 紙

問8 ②の 線Eの意味として、最もよいものを次の中から選
び、記号で答えなさい。

- ア たわいもないこと
- イ 良いことと悪いこと
- ウ 出来の悪い仕事
- エ 記憶に残っていること

問9 ②の 線F「書きつくれば」とは、何を書きつくるのです
か。文章中の言葉を抜き出しなさい。

問10 ②の 線Gの読みを、現代仮名遣いを用いて、すべてひら
かなで書きなさい。

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(3)

物語

A 祇園精舎の鐘の聲、

諸行無常の響きあり。

娑羅双樹の□の色、

B 盛者必衰のことわりをあらはす。

C おごれる人も久しからず、

ただ春の夜の夢のごとし。

問1 線Aの読みを、現代仮名遣いを用いて、すべてひらがなで書きなさい。

()

問2 文中□に入る言葉として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 土 イ 草 ウ 木 エ 花

()

問3 線B「ことわり」の意味として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 断ること (イ) そうあるべきこと (道理)
ウ 約束したこと ()

問4 線CおよびEの意味とよく似た意味を表している言葉を、文章中より抜き出しなさい。

C ()

E ()

問5 線D「たけき者」の意味として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

D
たけき者もつひには滅びぬ、

E
ひとへに風の前の塵に同じ。

〔平家物語〕より



- ア 勇ましい者
- イ すぐれている者
- ウ 勢いが盛んな者
- エ 努力する者

問6 線C「久しからず」の意味として、最もよいものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 長くは続かない
- イ 長い間会っていない
- ウ 永遠に続いていく
- エ しばらくやっっていない

問7 上の文章について、感じたこと、考えたことを自由に書きなさい。

一年「声に出して、さまざまな作品を読もう」(4)

漢詩

春暁 しゅんげう

孟浩然 もうこうねん

春眠 しゅんみん

暁を覚えず あかつきを覚えず

処処 しよしよ

啼鳥を聞く ていじうを聞く

夜来 やらい

D の声

E 花落つること知る多少

問1 線A「暁を覚えず」とは、なぜですか。

()

問2 線B「処処」の意味として、最もよいものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

- ア あちらこちら
- イ 前方
- ウ ねぐら
- エ 家の中

()

問3 線C「啼鳥」の意味として、最もよいものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

- ア 強い風が吹く音
- イ 鳥のさえずり
- ウ 鳥が飛び立つ音
- エ 人の寝息

()

問4 詩中のDに入る言葉として、最もよいものを次の中から
選び、記号で答えなさい。

- ア 人々
- イ 風雨
- ウ 草木
- エ 雷鳴

()

問5 線Eの意味として、最もよいものを次の中から選び、記
号で答えなさい。

漢文

F 吾、十有五にして学がくに志す。 G

三十にして H

四十にして I

五十にして J

六十にして耳順みみごふ。

七十にして K の欲ほつするところに従ひて、

矩のりをこえず。

ア 花がたくさん落ちたことを知った。
イ 花が落ちたかどうかわからない。
ウ 花はどれほど散ったことだろう。
エ 花は多少落ちたかもしれない。

問6 漢文の書名と作者名を答えなさい。

書名 () ()
作者名 () ()

問7 線F「吾」とはだれのことですか。

() ()

問8 線Gは何才のときですか。

() () 才

問9 文中H～Jの□にあてはまる言葉を、次のア～ウの中から
選び、記号で答えなさい。

ア 天命を知る イ 立つ ウ 惑(まど)はず

H () () I () () J () ()

問10 □にあてはまる言葉を漢字一字で書きなさい。

() ()

一年「竹取物語」(1)

日本には、「むかしむかし、あるところに……。」と始まる古いお話がたくさんあります。「浦島太郎」「桃太郎」「瓜子姫」……。これらのお話は、それこそ「むかしむかし」から多くの人に語り継がれ、読み継がれてきました。

かぐや姫のお話もその一つで、もとは似た話がたくさん言い伝えられていたようです。[a]は、約千百年前に、それらをもとにつくられた「古典」です。

古典には、その当時の人々の生活や心情、ものの見方や考え方が描かれています。「現代とは違っている」と思うことや、反対に「現代と変わらない」と感じるなど、気をつけて、[a]を読んでみましょう。

(古文)

今は昔、竹取の翁おきなといふ者ありけり。

野山にまじりて竹を取りつつ、

A よろづのことに使ひけり。

B 名をば、さぬきの造みやじとなむいひける。

その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。

C あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。

それを見れば、三寸ばかりなる人、

問1 [a]に入る言葉を書きなさい。

()

問2 古文は言葉の省略の多いことが特徴の一つですが、(現代語訳)の中の[b]に補うとよい言葉一字を書きなさい。

()

問3 線A「よろづ」を、現代仮名遣いに直して書きなさい。

()

問4 線A「よろづのこと」、線D「いと」の現代語の意味を答えなさい。

線A「よろづのこと」

()

線D「いと」

問5 線B「さぬきの造となむいひける。」とは、だれのことですか。次のア～エの中から選びなさい。

ア

()

D
いとつくしうてゐたり。 E

(現代語訳)

今となつては昔のことだが、竹取の翁という者が **b** いた。

野山に分け入って竹を取つては、

いろいろなことに使つていた。

名は、さぬきの造といった。

その竹の中に、根もとの光る竹が一本あった。

不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光つてい
る。

その筒の中を見ると、三寸ほどの大きさである人 **b**、
たいそうかわいらしい様子で座つてゐる。

「三寸ばかりなる人」は、美しく成長して、かぐや姫と名づけられま
す。その評判を聞きつけて、五人の貴公子が求婚に來ますが、かぐや姫
は、この世にありそうもない宝を探してくるよう要求します。彼らはそれ
ぞれ手を尽くすのですが、実際に見つかるとはならず、ことごとく失敗し
ます。その後、帝も宮中に迎えようと思しますが、かぐや姫はこれにも応じ
ようとしません。

ア 浦島太郎
イ 桃太郎
ウ 竹取の翁
エ 三寸ばかりなる人

問6 線C「寄りて見るに」は、だれの動作ですか。古文中か
ら抜き出しなさい。

問7 線E「ゐたり」とは「座つていた」という意味ですが、
だれが座つていたのですか。古文中から書き抜きなさい。

問8 かぐや姫が、求婚に応じようとしなないのはなぜだと思いま
すか。考えたことを書きなさい。

一年「竹取物語」(2)

貧しかった竹取の翁の家に富をもたらしたかぐや姫は、もともとは月の都の人でした。物語の最後には、迎えの天人たちに導かれて、月に帰っていきます。

(古文)

天人の中に、持たせたる箱あり。

天の羽衣^A入れり。

またあるは、不死の薬入れり。

一人の天人言ふ、

「壺^{つぼ}なる御薬^{みくすり}たてまつれ。

きたなき所の物きこしめしたれば、^B

御心地^{おんこちあ}悪しからむものぞ。」

とて、持て寄りたれば、

いささかなめたまひて、少し、形見^Cとて、

脱ぎ置く衣^{きぬ}に包まむとすれば、^D

ある天人包ませず。

問1 線Aの読みを、すべてひらがなで書きなさい。

()

問2 線Bの意味として、適切なものを次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア お越しになってきたので
- イ お聞きになってきたので
- ウ お召しになってきたので

()

問3 線Cの意味に合うものを、次のア～エの中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 別れた人を思い出す頼りとなる品
- イ そばにいる人の記念の品
- ウ 世間に対して誇らしいと感じる品
- エ 過ぎ去ったことを思い出す品

()

問4 線D「脱ぎ置く衣に包まむ」とは、だれの動作ですか。古文中から、五字以内で抜き出しなさい。

()

御衣^{みぞ}を取りいでて着せむとす。

そのときに、かぐや姫、

F 「しばし待て。」と言ふ。

「衣、着せつる人は、

心異^{こと}になるなりといふ。

G ものひと言、言ひ置くべきことありけり。」

と言ひて、文書^{ふみ}く。

(現代語訳)

天人の中(の一人)に、持たせた箱がある。

(それには) 天の羽衣が入っている。

また別の箱には、不死の薬が入っている。

一人の天人が言う、

「壺に入っているお薬をお飲みください。

きたない地上のものを召しあがってきたので、

ご気分が悪いことでしょう。」

と言って、(薬を) 持ってそばに寄ってきたので、

(かぐや姫は) 僅かにおなめになって、少し、形見と

問5

線E「着せむとす」とは「着せようとする」ですが、「ア だれが」、「イ だれに」着せようとするのですか。古文中から、それぞれ五字以内で抜き出しなさい。

ア () ()

イ () ()

問6

線F「しばし待て。」とありますが、かぐや姫はなぜ、そう言ったのでしょうか。考えたことを書きなさい。

問7

線G「ものひと言」は、だれがだれに対してですか。適切なものを□から選び、記号で答えなさい。

だれが () (だれに) () (対して)

- | | | | | | | | |
|---|------|---|---|--------|---|---|------|
| ア | 竹取の翁 | ・ | イ | 五人の貴公子 | ・ | ウ | かぐや姫 |
| エ | 天人 | ・ | オ | 帝 | ・ | カ | 頭中将 |

して、脱いでおく着物に包もうとすると、

(そこに) いる天人が包ませない。

天の羽衣を取り出して、着せようとする。

そのときに、かぐや姫は、

「しばらく待ちなさい。」と言う。

「天の羽衣を着せてしまった人は、

心が(この世の人間とは)変わってしまうということです。

(実は) ひと言、言っておかねばならぬことがあるのです。」

と言って、手紙を書く。

その手紙には、次のように書いてありました。

「たくさんのご家来をお遣わしになって、私をとどめようとなさいました。月に帰らなくてはなりません。悲しいことです。おそばにお仕え申しあげられないのも、こういう身の上だからです。天の羽衣を着る今、あなた様のことをしみじみと思ひ出しております。」

かぐや姫は形見として、この手紙に不死の薬を入れた壺を添えて、
 Aに献上しようと、Aの家来の頭中将に手渡すことにしました。

(古文)

中将取りつれば、

問8 Aの中に入る言葉を書きなさい。

問9 線H「いとほし、かなし。」と思っていたのはだれですか。

問10 線H「いとほし、かなし。」と、なぜ思っていたのですか。考えたことを自由に書きなさい。

問11 線I「この衣着つる人」とは、だれのことですか。次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 天人
- イ 帝
- ウ かぐや姫
- エ 貴公子

問12 線J「昇りぬ」の現代語訳として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ふと天あまの羽衣はごろもうち着せたまつりつれば、

翁おきなを、「いとほし、かなし。」^H

とおぼしつることも失うせぬ。

この衣着つる人は物思ひなくなりければ、

車Iに乗りて、百人ばかり天人具して、昇Jりぬ。

そのち、翁K・嬬おうな、

血の涙を流して惑へど、かひなし。

(現代語訳)

中將が(手紙と壺を)受け取ると、(天人が)さつと天の羽衣を(かぐや姫に)着せてさしあげたので、おじいさんのことを、「気の毒だ、かわいそうだ。」とお思いになつていたことも消え失せてしまった。

この天の羽衣を着た人は、地上の人間としての感情がなくなつてしまったので、(そのまま)天を飛ぶ車に乗つて、百人ほどの天人を引き連れて、(月の世界に) 。そのち、おじいさんとおばあさんは、血の涙を流して悲しむけれども、どうにもしかたがない。

ア 昇つてしまった イ 昇らなかつた

問13 線K「翁・嬬」の気持ちを想像して、考えたことを自由に書きなさい。

問14 かぐや姫が地上の人ではないことがわかることを一つあげ、現代語で説明しなさい。

問15 本文を読むと、かぐや姫は月の世界で身分が高いことがわかります。天人がかぐや姫と話すときの、どの言葉からわかりますか。古文中から一つ、抜き出しなさい。

二年「枕草子・徒然草」

I

A

うつくしきもの 瓜にかきたるちごの顔。

すずめの子の、ねず鳴きするに躍り来る。

二つ三つばかりなるちごの、急ぎてはひ来る道に、いと小さきちりのありけるを、目ざとに見つけて、

いとをかしげなるおよびにとらへて、大人ごとに

見せたる、いとうつくし。

C

頭はかしら尼あまそぎなるちごの、目に髪かみの覆おほへるを、

かきはやらで、うちかたぶきて物など見たるも、

うつくし。

(清少納言「枕草子」第百四十五段より)

問1

線A「うつくしきもの」とはどういう意味ですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア きれいなもの
- イ かわいらしいもの
- ウ 色映りのいいもの
- エ うらやましいもの

問2

線A「うつくし」といっているのは、どんなことですか。四つを現代語で書きなさい。

- ()
- ()
- ()
- ()

問3

線B「いと」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 少し
- イ 絹糸の
- ウ たいへん
- エ 不思議な

問4

線C「覆へる」部分の読みを、すべて現代仮名遣いで書きなさい。

- ()
- ()

II

仁和寺にんなじにある法師、年寄るまで、石清水いししみづを拝まざりければ、心うく覚えて、あるとき思ひ立ちて、ただ一人、かちより詣まうでけり。極楽寺ごくらくじ・高良かうらなどを拝みて、かばかりと心得て帰りにけり。

さて、かたへの人にあひて、年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊とんくこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、なにごとかありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意ほんいなれと思ひて、山までは見ず。とぞ言ひける。

少しのことにも、先達せんたちはあらまほしきことなり。

(兼好法師「徒然草」第五十二段より)

問5 IIの中に、仁和寺の法師が話している部分があります。その部分の最初と最後の五字を抜き出しなさい。(句読点は含まない。)

最初

最後

問6 線D「帰りにけり」はだれの行動ですか。Iの文中から抜き出しなさい。

()

問7 線E「年ごろ」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

- ア ちようどいい年齢
- イ 長年
- ウ 年をとった頃
- エ 若い時に

()

問8 IIの中で兼好法師の意見が述べられている一文を抜き出し、最初の五字を書きなさい。

二年「漢詩の世界」

I

黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
くわうかくろう まうかうねん くわうりよう
 コウ モウコウ コウリヨウ

李白りはく

故人西のかた黄鶴楼を辞し
こじん しん

故人西辞黄鶴楼ニコ

烟花三月揚州に下る
えんくわ さんげうしゆう

烟花三月下揚州ニコ

孤帆の遠影碧空に尽き
こはん えんいへきくう

孤帆遠影碧空尽ニコ

惟だ見る長江の天際に流るるを
ただみる ちやうかう てんさい

惟見長江天際流ニコ

II

春望
しゆんぼう シュンボウ

杜甫とほ

国破れて山河在り

国破山河在ニコ

城春草木深シ

城春草木深シ

時に感じては花にも涙を濺ぎ
シテハニ ニモ

感時花濺涙ニコ

a

問1 線A「故人」とはだれのことですか。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 李白
- イ 孟浩然
- ウ 杜甫
- エ 孔子

()

問2 線B「烟花」の意味として、もつともよいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア たばこの煙
- イ 花をも燃やしている煙
- ウ 花に立ち込めるかすみ
- エ 燃えるように咲いている花

()

問3 線D「天際」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

- ア はるかかなたの国々
- イ 自然現象による災害
- ウ 空のはるかかなた
- エ 山と川の境界

()

問4 a にあてはまる句を、訓読文を参考にして書きなさい。

()

問5 線C「三月」、線F「三月」は読み方が異なりま

す。それぞれの読み方を、ひらがなで書きなさい。

線C「三月」()

線F「三月」()

別れを恨んで鳥にも心を驚かす

恨別鳥驚心

烽火三月に連なり

烽火連三月

家書万金に抵る

家書抵万金

白頭搔けば更に短く

白頭搔更短

渾べて簪に勝へざらんと欲す

渾欲不勝簪

III

絶句 杜甫

江碧にして鳥逾白く

江碧鳥逾白

山 [b] して花 [c] と欲す

山青花欲然

今春看又過ぐ

今春看又過

何れの日か是れ帰年ならん

何日是帰年

問6 線E「時に感じては花にも涙を濺ぎ」に対応する句を抜き出しなさい。

問7 線G「白頭搔けば」とは、どのような心情ですか。また、それはなぜですか。考えたことを書きなさい。

問8 [b]・[c]に入る言葉を継ぎから選び、記号で答えなさい。

ア 白く イ 燃えん ウ 青く エ 碧（みどり）

b () c ()

問9 線Hの作者の気持を次から選び、記号で答えなさい。

ア 故郷を思う気持ち イ 未来への希望を抱く気持ち
ウ 過ぎゆく春を惜しむ気持ち
エ 友人との別れを惜しむ気持ち

()

三年「おくのほそ道」(1)

月日は

A

月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、去年の秋、江上の破屋にくもの古巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てるかすみの空に、白河の関越えむと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、道祖神の招きに会ひて、取るもの手につかず。もも引きの破れをつづり、笠の緒付け替へて、三里に灸据ゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、杉風が別墅に移るに、

問1

線A「過客」の意味を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 来客
ウ 旅人
イ 先客
エ 旅行

()

問2 次のア〜ウの歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直しなさい。

- ア いづれの ()
イ はをく ()
ウ だうそじん ()

問3 作者の、先人へのあこがれが読み取れる部分を文章中からさがし、十三字で抜き出しなさい。(句読点を含む。)

()

問4 ①作者があてのない旅に出たいという気持ちを何と表現していますか。文章中から五字で抜き出しなさい。

②また、この気持ちを比喩で表現している部分を文章中から九字で抜き出しなさい。

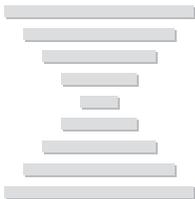
- ① ()
② ()

問5 作者が旅から戻らない覚悟であるとわかる部分を文章中から十一字で抜き出しなさい。

()

草の戸も住み替はる代ぞ

面八句を庵の柱に懸け置く。



問6

線B「去年の秋」とありますが、江戸に帰ってくるまで作者は何をしていたのかがわかる言葉を、文章中から八字で抜き出さない。

問7

線C「破屋」と同じものを表していることばを文章中から二つさがし、五字と三字でそれぞれ抜き出さない。

五字 ()
三字 ()

問8

線D「そぞろ神の物につきて心を狂はせ」とは、どんな気持ちを表しているか書きなさい。

問9

に入る言葉を入れなさい。

三年「おくのほそ道」(2)

平泉
ひらいずみ

A 三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鷄山のみ形を残す。まづ高館に登れば、北上川南部より流るる大河なり。衣川は和泉が城を巡りて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、蝦夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつてこの城にこもり、功名一時の草むらとなる。国破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠うち敷きて時の移るま
E
で涙を落としはべりぬ。

夏草やつはものどもが夢の跡

問1 線A「三代」とは、「藤原□・基衡・秀衡」を指しま

すが、□に入る名前を、次から記号で選びなさい。

ア 忠衡 イ 泰衡 ウ 清衡 エ 信衡

問2 線B「さても」の現代語訳を次から記号で選びなさい。

ア それから イ それで
ウ それにしても エ そのように

問3 線C「こもり」とありますが、こもっていたのは、どんな人たちですか。次から記号で選びなさい。

ア 源義経とその家臣たち イ 源頼朝とその家臣たち
ウ 藤原秀衡とその家臣たち エ 藤原泰衡とその家臣たち

問4 線D「功名一時の草むらとなる」とはどのような意味か、書きなさい。

問5 線E「時の移るまで涙を落としはべりぬ」とありますが、どうして作者は涙を流したのでしょうか。最も適当なものを次から記号で選びなさい。

F
卯の花に兼房見ゆるしらがかな
曾良

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。七宝散りうせて玉の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、すでに頽廃空虚の草むらとなるべきを、四面新たに囲みて、蔓を覆ひて風雨をしのぎ、しばらく千歳の記念とはなれり。

G
五月雨の降り残してや光堂



ア 藤原氏三代の栄華を目の当たりにしたから。
イ 念願がかなって、義経が過ごした平泉にすることができたから。
ウ 自然の悠久さに比べて、人間の営みがはかないと感じたから。
エ 江戸から随分遠いところまで旅をしたことを実感したから。

問6
線F「卯の花に兼房見ゆるしらがかな」で、曾良は、なぜ「卯の花」に兼房を連想したのでしょうか。句の表現から想像して、考えたことを書きなさい。

問7
線G「五月雨の降り残してや光堂」について、季語、季節、切れ字を答えなさい。

季語（ ） ・ 季節（ ） ・ 切れ字（ ）

問8 この文章では人生を旅であると考え、芭蕉、栄華を夢見る藤原氏一族、功名を夢見る義経や兼房、頼朝の圧力に屈して義経を討つ泰衡など様々な人物が登場します。その中で、あなたが興味をもった人物を一人取り上げて、その人のどういふところに興味を抱いたのかを自由に書きなさい。

三年「中国の古典の言葉」

① 備へ **a** れば、患ひ **b** し。

② **A** 百聞は一見に如かず。

③ **c** 穴に入らずんば、**c** 子を得ず。

④ 寧ろ **B** 鶏口と為るとも、牛後と為る無かれ。

寧 ロ 為 ニ 鶏 ト 口、無 レ 為 ニ 牛 ト 後。
（『十八史略』）

鶏の口になっても、牛の尻になつてはならない。
d のほうがよい、ということのたとえ。

⑤ 先んずれば **D** 即ち人を制し、後るれば **D** 則ち人の制する所と為る。

先 ンズレバ 即 チ 制 シ 人、後 ルレバ 則 チ 為 ル 人 所 制 スル。
（『史記』）

問1 ①は、「(ふだんから)準備ができていれば、(万一のことが起こっても)心配することはない。」という意味です。**a**・**b**

に当てはまる語の組み合わせとして、最もふさわしいものを、次から選り記号で答えなさい。

ア 上・下 イ 有・無 ウ 必・要 エ 軽・重

問2 線A「百聞」の読みと意味を答えなさい。

読み ()

意味 ()

問3 ③は「利益を得るには、危険も冒さなければならぬ。」ということのたとえです。**c**にあてはまる言葉を、次から選り記号で答えなさい。

ア 子 イ 牛 ウ 虎 エ 猿

問4 線B「鶏口」、線C「牛後」の読みを答えなさい。

線B「鶏口」 ()

線C「牛後」 ()

人より先に行動を起こせば有利な立場に立つことができ、出遅れると人に負けてしまうことになる。

⑥ E 子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説ばしからず

や。朋遠方より来たるあり、また樂しからずや。人知ら

ずして慍みず、また君子ならずや。」と。

子曰、「学而時習之、不亦説乎。」

有朋自遠方來、不亦樂乎。

人不知而不慍、不亦君子乎。」

〔論語〕

「学んだことをおりにふれて反復し理解を深めていくのは、なんともうれいことではないか。友人が遠くから訪ねて来るのは、なんとも心楽しいことではないか。他人が自分を認めてくれなくても不満をもたない人は、なんとも立派な人ではないか。」と。

問5 ④の [d]・[e] に最もふさわしい言葉を、次から選び記号で答えなさい。

- ア 大きな集団の先頭 イ 大きな集団の後方
ウ 小集団の先頭 エ 小集団の後方

d () e ()

問6 線D「制する」の「制」を使った二字熟語を一つ書きなさい。

()

問7 線E「子」の意味として最も適切なものを、次から選び記号で答えなさい。

- ア あなた イ わたし ウ 先生 エ 子ども

()

問8 線F「また楽しからずや」とは、ここではどのような意味ですか。現代語に直して、答えなさい。

()

問9 ①～⑥の中で、あなたが興味をもった言葉の一節を引用し、三百字以内で文章を書きなさい。

平成 24 年度版『中学生の国語』
単元「伝統的な言語文化」
テスト問題例集

2011 年 6 月 13 日発行
発行者 株式会社 三省堂
代表者 北口克彦
発行所 株式会社 三省堂

●本社

〒101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14
電話 03-3230-9411（編集）・9551（営業）

●大阪支社

〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3
電話 06-6341-2177

●名古屋支社

〒460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F
電話 052-252-9211・9212

●九州支社

〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1
電話 092-531-1531・1532

●札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15ビル 3F
電話 011-616-8722

平成 24 年度版中学校教科書 Web サイト
<http://tb.sanseido.co.jp/24/>

